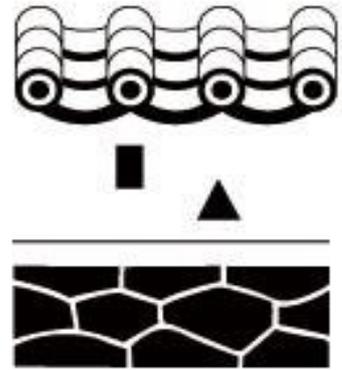


OGO 第79号 小田原ガイド協会だより

平成 31 年 3 月 1 日発行 (春号・季刊)

NPO 法人 小田原ガイド協会 〒250-0014 小田原市城内 3-22
TEL 0465-22-8800 FAX 0465-22-8814
ホームページ URL <http://www.odawara-gaido.com>



早川臨時観光案内所 開設について

次世代に繋ぐ ONE STEPS

会長 堀池衡太郎

小田原市が提唱する「観光まちづくり」は、東部・中部・西部地区と三地区の「中心的な施設」、「観光資源は何か」、小田原市は「都市整備計画の目標及び計画期間」で平成二十九年から平成三十三年の中期計画を設定して発表をしています。

その幾つかの大目標の一つとして、「早川駅周辺と漁港を中心とした賑わいのある持続可能な集約型観光拠点の形成」があります。その大目標に沿っ



TOTOCO
シンボルマーク

て当協会としても市及び関連団体と歩調を合わせ、仮称早川臨時観光案内所の開設が、二〇一九年度は可能な範囲で動きだそうとしています。JR 駅から最も近い第三種漁港で、小田原漁港を核として、周辺は漁業に関連する集落としてまとまりある地域体が形成されていると共に、水産に係る地域資源を生かした観光拠点としても賑わいと活力をけん引するエリアとなっています。

◆背後には日本有数の世界的観光地箱根や伊豆を控え、首都圏からも近く交通のアクセスが非常に良い事等も好立地と考えています。

◆豊かな海の背景には、石垣山一夜城歴史公園をはじめとし、植物では大正十三年(一九二四年)十二月九日に国の天然記念物に指定され、かながわ名木百選にも選出され最近のブログでは「パワースポットの場所」として自生しているバクチノキもあります。

◆海浜を埋め立て、漁業の拠点施設の一つである蓄養と小田原漁港交流促進施設(通称

TOTOCO)の融合により都市住民と地域住民交流を積極的に推進し更なる地域活性化の役目を協会が潤滑油的立場になることにより、今まで以上に地域の魅力を高めていきたいと考えます。

西部の中心な場所がTOTOCOになり、平成三十一年五月開業に向け、経済部と数年前からこの施設開業計画に備え協議し、現在の協会が出来る範囲と今後二十年先の将来を鑑みて平成三十年下期から具体的な準備期間を設け開設委員会を設立、ベテランと新人の幅広い年代構成で、動きだしています。

「小田原らしいコンパクトシティ実現」に不可欠な拠点であり持続可能で賑わいのある「まちづくり」に加え「回遊性の新しい出発拠点」として求められます。当然そこには、漁港だけの用途以外に観光地的な要素を加え他団体と連携し、都市住民の非日常体験が得られるように、「海からのアクセス」、「食としての観光」、「早川まちあるき」等、東は小田原中部

地区、西は江之浦までの回遊性を考え市及び関連団体側と協議を重ねながら動きたいと考えています。

市の西部地区拠点として協会の中長期計画が可能になります。回遊バス添乗ガイド・レンタサイクル事業・石垣山一夜城定点ガイド・小田原宿なりわい交流館ガイドを有機的に連携し結びつけ、今後は早川駅から板橋地区の邸園の活用・小田原城までを網羅しながら、ワンステップ踏込、次世代に渡せる素材と判断し始動しました。現況は、昨年十二号台風の甚大な被害で営業開始予定が十一月に延び、それに合わせ、協会も初期の準備をしているところですが、特に協会の重要な役目として観光案内所業務があります。歴史・史跡・植物・店・駅・施設、ひとくちに観光案内業務と云っても多岐に渡りますので、今までの城内の内容とは、大きく違い観光客が最初に対応するのが、私達ガイド協会員になります。

JR早川駅を下車するとまず目にするのが、ガイド協会や

レンタサイクルの幟旗になります。「感じの良い対応」は協会員として最低限の義務になります。

コンビニ、地域の施設名、初日の出の見所、釣り場所、釣り道具や餌の買える場所等チョッと考えただけでも、守備範囲のフィールドは多岐に渡り広角になります。

未だ具体的な形態は決まっていませんが「ガイド業務」も当然行います。西部地区の回遊性を網羅するレンタ業務も行います。中期展望では年間の観光客対応となり、レンタサイクル貸出、史跡のご案内、早川商工振興会と有機的な協力や板橋、小田原城内までのルートの確立、アクセスが自由な片浦地区の観光振興促進も必要と考えます。

なによりも小田原市の長期計画では、産地水産強化支援事業「フィッシングパーク」（仮称）、歩いて回れる集約型都市構造の構築などがあり、私達の協会が求められることは小田原の観光を担う役目の二〇一九年度が第一歩と考えていま

ガイド料金改定のお願い

諸経費高騰の折につき、当協会では、平成三十一年四月一日よりガイド料金を改定させていただきます。カッコ内は現行価格です。

- ① 予約ガイド
一時間～三時間以内 二千元（千円）
三時間超 三千元（二千元）
- ② 定点ガイド（清水本陣・小田原城・板橋見付等）
一カ所に付きガイド一名 二千元（千円）
二カ所に付きガイド一名 四千元（二千元）
- ③ 石垣山一夜城と小田原城の同日ガイド
一カ所に付きガイド一名 二千元（千円）
二カ所に付きガイド一名三時間以内 四千元（千円）
二カ所に付きガイド一名三時間超 四千元（二千元）
- ④ 駅からガイドは据え置き。

NPO法人小田原ガイド協会

すし、未来図が描けます。
当面臨時観光案内所の開設は、土・日・祝日を基本としますが、その間に諸々の問題点や改革すべきことに対応し、観光案内所業務やガイド事業、レンタサイクル事業を潤沢に運営でき、未来図が描けます。

造りに貢献できればと考えています。

まずは年間開設にスムーズに移行できるように協会員の方々のご協力、役員一同を代表してお願いする次第です。

桜町仕法と成田山参籠

石井兵資

二宮尊徳全集文政十二年正月の日記牒に、次の項が記載されている。

「金次郎儀御用向有之今日昼出府致候事、これより二宮翁跡跡失すること九十余日、終に成田の不動にて尋ね当られ、新生の意気を持って現れ来る」

一月に桜町陣屋を出奔し、三月に下総の成田山に参籠とあるだけで、金次郎の書簡も、記録もなく杳（こう）としてその行方はわかっていない。その3ヶ月の空白を材料として、池波正太郎は短編「尊徳雲隠れ」を書いた。文字通りの雲隠れの金次郎に焦点を絞



り、仕法のはかどらぬ状況に落ち込み、又立ち直る人間臭い金次郎を、私達の知る別人のように描いて面白い。

さて実状は――
金次郎が小田原藩主大久保忠真から、野州桜町領（現真岡市）の復興の委嘱を受けたのは文政四年（一八二二）、金次郎三十四才の時。

桜町仕法とは、旗本宇津家四千石の家政建て直し事業である。江戸城に出仕すべき家柄の宇津家は、財政難のため出仕支度金ができず、本家小田原藩は再三援助するも解決に向かわず、金次郎に白羽の矢を立てたのである。

金次郎が考える対象は宇津家のためでなく三ヶ村の農民のためであり、仕法は「分度」である。

それは「野州論」と呼ばれ、藩の首脳からの侮蔑語であった。藩からは上席（目付）がつき、指図批判を行ない、陣屋では意見が纏まらず、三ヶ村の村民も動揺、衝突も起こっていた。金次郎は苦難の連続であったが仕法は着実に進展していたようだ。



栃木県真岡市にある桜町陣屋跡の建物 平成12年復元

文政九年上席が転出、金次郎は組徒格士分、現地責任者に昇進。

補佐役に横山周平が派遣され、金次郎主導の体制となるが、反目者もあり病弱の横山は翌年江戸へ帰着。交代に四歳年下の豊田正作が赴任、金次郎と豊田は意思の疎通がうまくいかず、仕法に支障をきたすようになる。金次郎独自の仕法は官僚機構の一員としての豊田の論理とは反するものであった。

豊田は勤務予定が文政十一年二月まで延長されたため、四月に金次郎は宇津家宛て役儀御免の願書を認め、五月豊田に辞任の意向を伝え、名主に願書を預け江戸へ派遣をした。

願書の眼目は、政道のあり方と

自己の仕法の理念を説き、復興の容易ならざるは理念を弁えざる役人の不正にあるとした。文政九年の凶作時の仕法の実施にあたっての対立、契約を守らない藩に対し抗議したが譴責を受けたという。

仕法放棄ではなく条件闘争であったのか。願書は預かり置きとなり、豊田は陣屋詰の任を解かれるが、十月金次郎の目付として再赴任。着任早々当年の凶作、減免についての仕様が対立、連携の欠如が露呈する。前述の如く金次郎と豊田の論理の対立であった。

十月頃から金次郎の表立った動きが消え、日記をつける余裕もなし。翌年正月江戸へ行くと云って出立したまま、行方不明となる。

十日に農民の陣屋への申し出、江戸への訴があり、三月二十日成田山新勝寺の参籠が判明する。

二十三日金次郎に宇津家より親書が届く。横山再派遣の配慮、反目の名主は失脚、豊田は江戸へ召還されるが、後、仕法の協力者となる。

参考著者

大藤修 早田旅人 稲葉守

新体制の曾我の梅まつり

梅まつり企画実行委員長
杉崎 和義



五年目になるが、これまで梅祭りガイドの経験がない。コースは何度も歩いているし、友人を案内したこともあるが、行程が長く、流れや組み立てに自信が持てなかった。故に敬遠していたのである。

少しご縁ができたのは梅の里レンタを二年間担当したこと。それに加えて養成講座の『曾我兄弟』を受け持ったことだ。初めてのことで、多くの資料、書籍を読み込んだものだが、言ってみればこれは机上のご縁にすぎない。

それがこのたび、梅まつりの責任者を仰せつかった。今回の命題は「若手主体」。近年梅まつりガイドの希望者が減少気味、それを何とかくいどめたい。その旗振り役が、未経験の私に回ってきたのだ！

まずは実行委員の依頼。養成四～六期生に悉く交渉、懇願。結果六名の了解を得、大先輩お二人にも加わっていただいた。前任者に教えを乞い、委員の皆さんの協力を仰ぎながら、準備を進めていったのだが、心中は「着々」どころか、手探りの綱渡りであった。関係各所との連絡折衝も当然のこと一気に増えた。彼我の距離感がなかなか掴めなかった。

ガイド希望者が定数に達しないことにも悩まされた。自分のことは棚に上げて、誰彼ともなく頭を下げた。繰り言のオンパレード。どうぞご容赦を。

それでも月日は否応なく過ぎ、いよいよガイド初日を迎えることになる。梅は三～四分咲き、誘客もそれなりにあった。降雪が案じられた流鏝馬も無事終了。というわけで、漸く一息ついたところである。全体の総括は後日になるが、ご協力いただいた皆様に感謝いたします。蛇足ながら私、この地のガイドデビューを果たしました。遅咲き？とんでもない、まだ蕾です。

企画ガイド

「小田原版 坂の上の雲」

◆坂の上の雲に寄せて

高橋 絹代



瓜生外吉海軍大将

◆ 昨年の十一月、小春日和の日、板橋駅に集合。
中村草田男が『降る雪や明治は遠くなりにけり』と詠んだのは昭和六年。明治が終わってたった二十年目です。今年明治

が終わって百六年。平成も終わろうとしている今年、日清日露戦争の話は遠い昔話のような出来事で、ましてや女性にとってはよけて通りたい戦いの話です。命を掛けて戦った兵隊さんには申し訳ありませんが(与

謝野晶子の『君死に給うことなかれ』を思い出します)無学な私にとってはどちらが勝ったのか負けたのかも分からず、ちんぷんかんぷんの状況でした。まず図書館に走り『坂の上の雲』の本を見ると全八巻。これを一か月で読破するのはとても無理。大宅壮一の『炎は流れる』をチョイ飲みならぬチョイ読をし、数年前NHKで放映されてたのを思いだし、オンデマンドから一ヶ月借り出し寝静

まった深夜にみるも八巻でタイムリミットオーバー。仲間のレクチャーを受けながらようやく概要を把握しました。『まことに小さな国が開花期を迎えようとしている。主人公秋山真之終焉の地小田原。ひとり彼のみならず、近代国家成立に奔走した多くの人々の足跡がまこと小さな小田原の地域に今なお色濃く残る。(略)道すがらふと見上げる坂の上の一朵の白い雲があなたに微

笑みかけることを願いつつ』

小説『坂の上の雲』の冒頭の
一部が引用された『ようこそ小
田原』のこの文が好きです。こ
の地小田原には元帥二名、大
将二名、中将二名、少将三名大
尉一名、計十名もの偉い軍人
さんたちが一時期でもお住ま
いになられたことは大変な驚
きでした。現在でもご子孫がお
住まいの方もおられます。

瓜生坂の上に登り相模湾を
一望し一朵の白い雲を見つけ
お客様に『あ！坂の上の雲です
よ』と声をかけ、皆で微笑んだ。

企画ガイド

「そうだ！お寺に行こう
やってみよう写経と座禅」

◆初めての

寺社体験企画

蓑宮香代子

道行く人の動きも気忙しさを
感じる師走十日。天気は、
上々。五百羅漢駅から少し入
った座禅道場玉宝寺山門にて

受付。企画内容としては、初
試みではあるが座禅の足を組
む所作や写経の筆を使つての
書写は苦手：などと難しく考
える方が多いのではないだろ
うか？ 不安がよぎる。

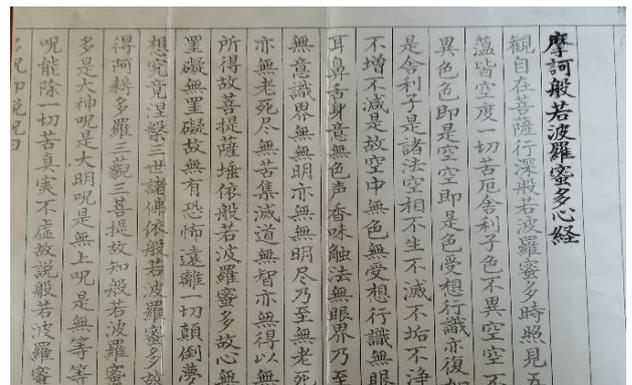
しかし参加いただいたお客
様には必ずや納得頂けるとい
う自負はあった。

企画参加リピーターに「こ
んな企画ははじめてです。楽
しみ！」といわれ一寸安堵す
る。

ご住職を待つ時間さらに法
話中も本堂の空気はピーン
と、張り詰めていた。

「座禅は決して堅苦しいもの
ではありません。ゆったり深
く呼吸する。足の組めない方
は横に出してもらってもかま
いません。椅子を使っていた
だいてもよいですよ」とご住
職に促され、ほつととするお
客様もあった。

次は毘沙門天に導かれ写経
道場の潮音寺。迎えて下さる
ご住職の柔和なお顔と写経の
ご案内が始まる、集中・静寂



般若心経

の時、控える私達も息を詰め
る。お客様の手元を追いなが
ら私自身、こんなに集中出来
る時間が持てるかしらと自問
する。早い人は三十分程で書
き終える方もあり、順次二階
に展示してあるビルマの堅琴
やご住職の御兄太平洋戦争時
に送付された御手紙など拝見
し、食事時間も同道頂いた。
座禅や写経は、無念無想の
境地に入れなければできない
という思いも払拭され、両ご
住職に「呼吸を整えることで

す。」と、教えて頂いた気が
する。この経験を単にこの場
で終わらせる事無く、私の中
でも何か活かしていきたいと
思う。

午前の精神面コースから午
後は散歩しながらお耳拝借、
栖徳寺・幻庵屋敷・東泉院何
れも小田原北条の百年を見て
きた武将北条幻庵の足跡に迫
る充実した行程だった。
ありがとうございました。

企画ガイド

「小田原 禄寿應穩
幸せ探し！」

◆平成最後の開運を 願う小田原を巡る

白須 文子

一月二十六日、今季一番の
寒さとの予報に覚悟を決めた
が、青空が広がりそれほどの寒
さもなく、まずは一安心。残念
ながら参加者十五名でしたが
三班に分かれスタートです。
まずは「禄寿應穩」とは北条



旧魚市場前にて

氏が領民の幸せを願い、「虎の印判」を制定したことを伝え、早雲像「火牛の計」、満願弁財天、大稻荷明神へ。拝殿では石井兵資さんより内部の説明を受け、今年の開運を祈願し宮司さんよりお祓いを受けました。

アークロードの制作物や駅の写真は「何度も来ているのに初めて知った」の感想。氏政の墓の説明も初めて聞いたとの事、私も心の中でガッツポーズ！ 靴のマツシタのギョサンは「合格祈願（滑らない）」、

国道沿いでは箱根駅伝・東海大総合優勝に大盛り上がりです。

丸う田代蒲鉾店、籠常でのお買い物、松原神社で銀杏の木からパワーを受けた（？）

なりわい交流館で昼食。午後「魔法の窓」と御幸の浜で「海からのパワー」と禊です。午前中からの黒い雲も少し開けて青空が見えてきました。これも開運（開雲）です！

ういろいろ博物館とお買い物でお土産を増し、二宮神社から城内へ、「神の宿る木・オガタマノキ」では巫女舞で使う「神楽鈴」の由来を知り納得。三本の天然記念物の紹介。本丸から「蓮池弁財天」へ、終点の市民交流センターに無事到着、大変お疲れ様でした。終始穏やかなお客様方でまさに「禄寿應穩」ですね。

開運に特化したガイドでしたが、皆様に喜んでいただき私も幸せな一日でした。

十二月以降の退会者

香川 興勝さん

ありがとうございます。

木菟のささやき



織田信雄

秀吉軍が攻めてきた小田原合戦、その配下に織田信長の弟、信包、そして次男の信雄の名がみえる。

織田家の家臣だったはずの秀吉だがこの時点で上に立っている。その力関係が逆転したのはいつのことだろうか？

昔、よく「光秀の三日天下」という言葉を聞いた。信長の天下を明智光秀が本能寺で奪い、山崎の戦いで秀吉が主君の仇を討ち天下を奪い返した（？）まるでボクシングのタイトルマッチみたいだが、ことはそう簡単ではない。

清州城の会議で織田家の後継者について話し合いが行われた。候補は次男で暗愚といわれた信雄、三男で有能な武将といわれる信孝の二人。柴田勝家は信孝を推した。秀吉は長男信忠の遺児、三法師（三才）を推す。結論は「後継者

は嫡流の三法師、そして信雄と信孝が後見人」となる。

ここから秀吉の暗躍が始まる。織田家の中で勢力を伸ばし、少しずつ息子たちの力を削いでいく。

賤ヶ岳の戦いでは、信雄の名で信孝を自刃に追い込む。さらにその信雄が家康と組んだ小牧・長久手の戦いでは、講和に持ち込み、対等以上の関係を築く。だが、それらはいくまでも織田家内部の勢力争いだ。

天正十三年、秀吉は関白の座を得る。関白とはすなわち天皇の代理である。ここではじめて秀吉は織田家の枠組みを超え、頂点にたったのだ。

秀吉は京に政庁である聚楽第を建設する。ここで行われた天行幸の際、信雄は秀吉への臣従を誓い、豊臣政権の一大名へと成り下がった。

小田原合戦のあと、信包も信雄も、結局、出家に追い込まれる。秀吉の織田家超え、天下取りが完成したのである。

(T)

やさしいジオパークの話

第三回

山の誕生 その2 「隆起の話」

真木 和男

様々な形の山々

私たちが生活する小田原の地図を眺めると、西側の箱根火山から東端の相模湾へ向かっていくつかの丘陵が下つていきます。八幡山・荻窪・久野丘陵などは、前回説明した箱根火山の爆発的噴火による火山灰・軽石・火砕流の堆積によってできた丘陵です。今回はこれら丘陵の北東側に並んでいる大磯丘陵と足柄山地の低山および、さらに北側の丹沢を例にしながら三種類の山の誕生について紹介します。第二回目の写真を参考にしてください。

地震の仕組み

大陸プレートは、海洋プレートの潜り込みに引き込まれる

力と引き込まれないようにする反動の力が発生します。大陸プレートは相当な圧力を受け、ヒビが地下の岩盤にできます。地層の岩盤は圧力を受け続けるとヒズミが生じ、地層がズレて断層になります。

岩盤の急激なヒビやヒズミが地震を引き起こします。地震は主にプレート境界の大陸地下の百km前後や大陸プレート内の地下約二十km付近で起きます。地表は大きな地震のたびに断層の動きで隆起することがあります。

断層の動きによる

隆起の大磯丘陵

上部の大陸プレートは、下部の海洋プレートに引き込まれないようにする反動の力で起きる大きな地震のたびに隆起します。

隆起は断層の近くで起きます。大陸プレートはプレートの境界、断層、隆起の場所の順に並んでいます。隆起する場所でも断層に近い方は遠い方よりも大きな影響を受け、断層側の斜面が大きく隆起して急斜面になります。

なります。

小田原近辺について考えてみると、陸の北米プレートと海のフィリピン海プレートの境界は酒匂川とJR御殿場線の間であり、断層は国府津・松田線の県道付近にあると考えられます。

曾我丘陵を含む大磯丘陵の隆起は、かつての海底が大きな地震のたびに国府津松田断層帯の動きで約三千万年前から始まり、最近時、約六千年ごと約二十m隆起しています。

海洋プレート移動による

隆起の足柄山地

丹沢から侵食され流れてきた土砂や土石が、平地と海底に堆積します。海洋プレートの移動による圧力で、特に約百万年前、伊豆火山島の近づきで海底が大きく隆起したのは、松田山などの足柄山地です。大磯丘陵と足柄山地は並んでいます。隆起の原因が異なり、地形も川音川で明確に分かれています。

大陸同士の衝突による丹沢

第一回目に、海洋プレートの

岩石は重い玄武岩で、大陸プレートの岩石は軽い花崗岩である旨を説明しました。海の火山島であった丹沢は、約千五百万年前に海底火山でできた玄武岩質凝灰岩です。その後、約一千万年前に石英閃緑岩質マグマ(以後花崗岩とします)が上昇し、薄い玄武岩に包まれた花崗岩の丹沢火山島に変化します。約五百万年前に丹沢火山島は、海洋プレートの移動に乗り本州へ衝突します。丹沢は花崗岩で軽いため、海洋プレートのように大陸プレートの下へ潜り込まないで、陸の本州と一体化した丹沢が誕生しました。丹沢は約百万年前の伊豆火山島の衝突でさらに隆起します。



要素の
フオッサマグナ
サンショウバラ

No.	秋の企画ガイド	日時・集合場所	参加費	コース
1	おかめ桜 ひとめぼれの春	3月23日(土) 9時30分～14時30分頃 JR根府川駅前	1000円	根府川駅～寺山神社～釈迦堂～関所跡～リビエロード～お山の大将(昼食)～星ヶ山～根府川駅
2	小田原のさくら 町名碑巡り	4月3日(水) 9時30分～14時30分頃 小田原駅西口	700円	小田原駅西口～八幡山東曲輪下～瓜生坂～西海子小路～文学館～なりわい交流館(昼食)～御用米曲輪
3	箱根八里(旧東海道) 天下の嶮を歩こう③ シリーズ完結編	4月13日(土) 9時～12時30分頃 箱根湯本駅(バス)	700円	箱根湯本駅～甘酒茶屋～旧街道石畳～お玉観音堂～賽の河原～恩賜公園～箱根関所～箱根宿
4	石垣山一夜城 平成最後の体験ツアー	4月27日(土) 時間・集合場所未定	700円	生命の星地球博物館～石垣山城～早川駅迄の予定
5	難攻不落の総構を歩く (2回シリーズ・山地側)	5月19日(日) 時間・集合場所未定	1000円	城下張出～稲荷森～お鐘ノ台大堀切～早川二重戸張りまでを予定
6	早雲公顕彰500年 箱根湯本を周辺を散策	5月下旬予定 時間・集合場所未定	700円	箱根湯本駅より早雲寺周辺の史跡を散策する予定

各コース参加申込は、実施日の45日前からです。申込み 電話番号：0465-22-8800
小田原ガイド協会HPでもご案内しています。内容が一部変更されることがあります。

もう間もなく、平成の終わりが近づいてまいりました。今回は新しい元号になります。新しい視点の記事が掲載できるよう編集委員一同心掛けますので、よろしくお願ひいたします。

(Y・S)

編集委員
磯崎知可子(委員長)
鈴木康子 戸田博史
中村哲夫 宮澤周子

編集後記

秀吉と池田輝政の痕跡が残る「三國堀」、千姫の「化粧櫓」を見て姫路城を後にした。ランチは「神戸牛ステーキ井」で姫路をコンプリートした我が家である！

「暴れん坊將軍」でお馴染みの將軍坂に差しかかった時には大感激でシャッターを押す！しかし歩みを進めるにつれ「優美な白鷺城」では語り尽くせない迷路のような通路。そして天守内部には、籠城戦に備えた流しや雪隠。壁面には鉄砲や槍を掛ける武器掛け。敵兵を攻撃する「石打棚」など戦闘を目的とした工夫がされている事に驚きを隠せない。

「姫路城の中は何もない」とお客さんが言われるけど建物の構造を見て頂きたいのよ」とガイドさん。何をおっしゃいますやら、大満足である。



リレーエッセー わたしの城旅③
「戦う！」 姫路城

水口聡美

秋のシーズンも一段落した十二月中旬、実に三十年ぶりに国宝姫路城を家族で訪れた。申し込んでいた定時ガイドさんは、この道十七年で、御歳七十七歳のベテラン女性。二時間のコースを手際良く御案内。小田原からの訪問を予め告げてあったので総構えの話など織り交ぜたガイドは流石だ。